

これがナナヨソだ!

国産二代目の主力戦車

三菱重工業製

車体長 6.70m

稜線射撃と行進間射撃も可能

有効射程距離は弾種にもよるが3km程度

主砲 51口径 105mm ライフル砲 L7A1

砲弾は当初 APDS と HEP
現在では APFSDS と HEAT-IMP

サーマルジヤケット

74式車載7.62mm機関銃(主砲同軸)

ヘッドライト

ウイソカー

アクリル型赤外線暗視装置

ボーザー付74式戦車



操縦手席内部

ペリスコープ

操向ハンドル

回転数計

速度計



クランチペダル

アクセルペダル

今回、訓練に割り当てられた、坂本たちの乗っている七四式戦車は、車体前方に障害物除去用の排土板——ドーザーブレードが付いている。車体の重心やバランスが通常の七四式戦車と違い、操縦が難しい。(P334)

さすが陸戦の王者だ。威圧感がある。(P50)

甲斐も続く。黄色いテープを軽やかに引き、横に立って七四式戦車を見上げた。全長九・四メートル、全幅三・一八メートル、標準姿勢の全高二・二五メートル、全備重量三十八トン。



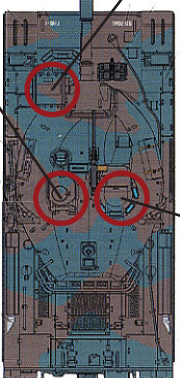
74式60mm発煙弾発射機

12.7mm重機関銃M12

投光器

「砲手、徹甲、右前方、二の台、戦車」
続けて車長の赤川が、早口で射撃指示を出す。
「装填よし」の声がヘッドセットから聞こえてくる。
「撃てっし」
「発射っし」
「一、拍置いた柳の復唱と同時に、射撃音が車内にも響き渡る。」(P334)

乗降ハッチは3か所+脱出用ハッチ
車長、砲手用ハッチ
操縦手用ハッチ



装填手用ハッチ

アンテナ

車体下部

最高速度 53km/h

エンジン 三菱 10ZF22WT

空冷2ストロークV型10気筒

ターボチャージャー・ディーゼルの

720PS/2200rpm

排気量 21,500cc

履帯



潜水キットを取り付けるとして2メートル強の潜水渡河が可能

装填手：士長～2士

車長：1佐～2曹

乗員 4名

履帯

起動輪

桜の官品マーク

車体番号

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの甲高い

なり音がする。クランチペダル

への力が緩むと回転数計が左に

戻り、履帯が張る音が響き、三

十八トンの鋼鉄の塊が、きしむ

音とともに動き出す。

坂本は七四式戦車の操縦手席

で、狭い三面のペリスコープから

の視界に神経を集中させてい

た。大きめの筆箱のようなペリ

スコップが前方、右前方、左前

方と並んで三つある。非常に狭

野は狭く、ハの字型の操向ハン

ドルを握る手のひらに、汗がに

じみ手袋が温った。(P332)

「前へ」復唱と同時にクランチ

ペダルを緩めながら、アクセル

ペダルを踏み込む。目の前の回

転数計が右端に振れる。空冷

ダイゼルの